

香教連・各単組行事の様子、御案内

「令和の日本型学校教育」の確実な構築と「学校における働き方改革」のさらなる推進のために



香教連は、十一月十一日(木)十四時より、県庁北館三階三〇三会議室において、香川県教育委員会との予算交渉を行った。香教連から北村頭吾委員長、原井和彦副委員長、瀧田泰誠副委員長、高木俊彦事務局長の四名が出席した。県教委側は工代

祐司教育長様をはじめ、他十三名が対応してくださった。
主な要望内容は、「小学校高学年における教科担任制導入に伴う専科教員の配置の推進・拡充」「小学校全学年における三十五人学級の確実な実現に向けて適切な教員配置の推進・拡充」「GIGAスクール運営支援センターの整備の検討、ならびにGIGAスクールサポーターやICT支援員の配置の推進・拡充」「学校における働き方改革」を実現するため、全県で共通化した総合型校務支援システムの導入や各学校および各教育関係機関で積極的に具体的な業務改善に取り組みよう、市町教育委員会と連携して早急な環境整備の推進や要請・啓発、「国家公務員法の改正に伴う職階や職責、給与に関する事項等、条例改正の慎重な検討」等を要望した。

原田智義務教育課課長様、藪木泰伸総務課課長様、小谷佳嗣健康福利課課長様からは、各重点項目について現段階での状況や来年度以降の方向性等、具体的に回答をいただくことができた。また、会の最後に工代祐司教育長様より、「学校における働き方改革においては、管理職の意識改革が必要不可欠である。学校における働き方改革を進めていくことにおいて、ダークなイメージを持たれている方々がおられるが、時代に適応した教育環境に変えていく、整えていくという前向きな意識と明るい展望をもって取り組んでいただきたい。そのためにも貴重な現場の意見を継続して挙げていただくとともに、互いに協力して学校における働き方改革を継続して進めていきたい。コロナ禍の中、また社会情勢が目まぐるしく変化化する中、先生方が現場で大変御苦労されている今日、今後も現場の声をしっかりと聴かせていただき、よりよい教育環境づくりに努めていきたい。」とお言葉いただいた。

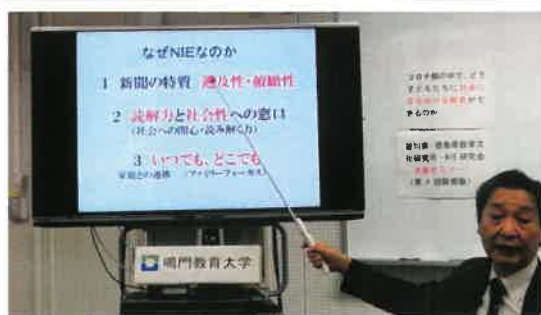


第四回教育セミナー ウェビナーで開催・配信



十一月十九日(金)十九時より、香川県教育文化研究所主催、香川県教職員連盟協賛による第四回教育セミナーをZoomウェビナーを活用して開催・配信した。今回はNIE研究会共催セミナーとして開催し、徳島県教育文化研究所とも連携して行った。また、後日(十一月二十一日付)の四国新聞に、オンラインセミナーとして取り上げていただき掲載された。北村頭吾香川県教文研理事長(香教連委員長)の挨拶の後、

今回は「コロナ禍の中で、子どもたちに社会の目を向ける教育ができるのか」「NIE活動の可能性」と題して、講師として阪根健二様(鳴門教育大学名誉教授・香川教文研所長)、植田恭子様(都留文科大非常勤講師)のお二人の先生方をお招きして、講演していただいた。
まず、植田先生からは、「主體的に情報と向き合い自分の考えを構築する単元学習」「アナログとデジタルのハイブリッド」と題して、御本人が実践された中学校国語科におけるSNSと新聞等の活かし方について話された。具体的には、戦後七十年で当時の新聞情報等が収集しやすいこととともに、SNSの機能の特性を考えると長期にわたって継続的な取



り組みが効果的であると考え、学年をまたがっての単元「時代を生きる一九四五」(中学二年三学期一月から三年二学期九月)において活用された実践である。本実践を通して、①思考の可視化であり、学びを振り返りつつ、次の段階に進むことが出来た。②新聞記事やSNS等を活用して、生徒が主體的に当時の事象や心情等を検証・推察していくことが出来た。③SNSの活用により、「一九四五年という時代」の情報を共有し、架空の世界ではありながら生徒が当事者意識をもち、現実味のあるコミュニケーションを体験し、生徒の意識が変化した。等の成果があったことを話された。

次に、阪根先生からは、「NIE実践の手法と条件を考える」「戸田実践を切り口として」と題して、NIE実践とはどのようなものか等について話された。新聞の価値を話された上で、NIE実践とは、発達の観点から、小学校では新聞に慣れ親しむ活動・読解の力・社会への関心等を育み、中学校・高等学校では公民的な資質を育成する活動・読み比べや合意形成という視点で、その集大成として、大学や地域でのNIE(活動)へつながっていくことを述べられた。そのためには、教員側が、新聞を活用するのか、新聞を作るのか、新聞を学ぶのか、その意図と主旨の明確化が必要であることを指摘された。また、その積み重ねが、子ども自身が学習を「自分事」として捉え、成果を自分の言葉で言語化し、ある状況で身につけた能力を別の状況でも使える(と思う)力の育成、「主体的・対話的で深い学び」の育成に結びついていくことも述べられた。
最後に、濱田学徳島県教文研理事長(徳教団委員長)が謝辞、閉会の挨拶で、今回も充実した教育セミナーとなった。次回(令和四年一月九日(日))に開催を予定しております。ぜひオンラインで御参加ください。

